

マンズリートピックス

□バイオント ダムの事故 北イタリア、ベルノ地方にあるバイオント ダムが10月10日に事故をおこした。このダムはドーム式アーチ ダムで、高さ266 m、世界第3位のハイダムである。10日の AP 電では「くずれ落ちて大量の水がどっと流れだし……」、引きつづく電報では「山くずれによってどっと流れだし……」、次に「大規模な山くずれのため、いっぱいになっていたダムの水があふれたもので、ダム自体は崩壊していない。岩盤の強さも十分調べた……」となっている。

大変な被害をだしているし、重要な土木構造物の一つでもあり、しかも日本にも沢山のアーチダムが造られた実績からも、関心はいやが上にも高いできごとである。「1億tの水があふれた」とも報じられていたり、「事前に危険を予知して水位は20m下げていた」ともいわれていて判然としない点もある。

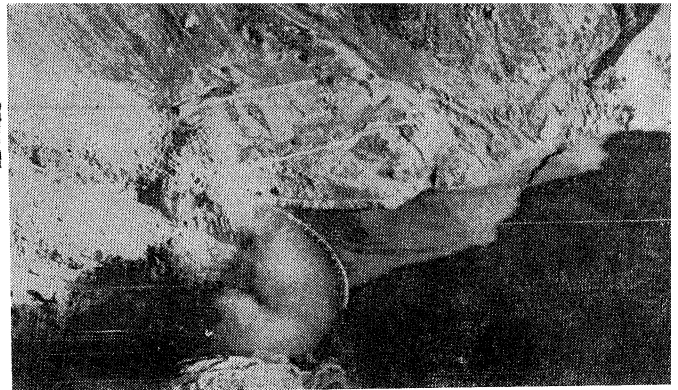
なるべく早い時期に真相を知りたいし、またこの事故だけで高ダムに対する不安感がつのったりしないように万全の措置を切望したいものである(写真 WWP 提供)。



事故発生後のダムを下流より望む

□マラソンのための交通規制 10月15日、朝日国際マラソンが東京で行なわれた。明治神宮外苑競技場を起終点とし甲州街道(国道20号)を西走し20kmさきの調布市に折返し点を設けた。マラソンを行なうためには交通規制を行わなくてはならないが、場所によっては日交通量4000台におよぶ位置があり、ひどい交通混乱が予想された。しかし事前準備と都民の協力と、さらに当日の規制体勢が当を得て、この混乱は予想外に小さかったと新聞は報じている。

きくところによると警視庁では、かねてよりこの交通規制のための万全の準備を行なっており、すでに庁



激流の中のバイオント ダム

内交通部に配置されていた交通工学の専門家にも工学技術的な立場から深く検討させていた。

今回の規制が成功したとしたらその理由の一つとして交通工学の貢献もあげられるであろうし、この分野でも学会員が進んで大いに活躍しなくてはなるまい。

□東京12チャンネル本免許認可 10月16日、関東地方に残された最後のテレビジョンチャンネルとして激しい争奪戦が行なわれていた東京12チャンネルが日本科学技術振興財団(会長 倉田主税氏・学会会員)に正式に認可され明年4月を期して、60%を科学教育番組にあてるユニークなテレビ局が開局される。科学技術者の不足をテレビ教育で補なう「テレビ通信制工業高校」の開校、第一線に働らく技術者の再教育など、わが国の科学技術の普及、向上のためにはたす役割はきわめて大きいと思われる。最近NHKテレビへ入社が決った新卒者もいるおり、今後この方面へも土木技術者が目を向け、一人一人が有能なタレントとして積極的に土木工学のPRを行ないたいものである。

□学会創立50周年 明年11月で大正3年に学会が創立されてから満50周年を迎えることとなる。学会では早くから記念事業委員会を組織し各種の事業を検討しているが、現在地の一角に土木図書館を建設する計画をはじめ、記念式典、講演会、巡回映画会、各種の記念出版など、多彩なプログラムが見込まれている。本事業達成のための総予算は7000万円が予定され、広く各業界のご援助、ご協力を切望している。

記念出版物の第一陣として2600ページに達する「土木工学ハンドブック」が10年前の旧版を全面的に改訂して出版される。12月末完成、新年早々全国一斉に売出されることになる。会員特価のサービスがあるので本号の巻頭ページをご覧いただきたい。土木用語辞典、土木学会略史、工事写真集、学会誌・論文集総索引、記念特集号など、盛沢山の出版も準備中であり学会の総力をあげて目下着々と編集集中である。